

2 インプラント埋入手術時に 考慮すべきこと

いのこ みつはる たかい やすひろ
猪子 光晴¹ 高井 康博²

1 JIADS 講師 いのこ 歯科医院
〒090-0051 北海道北見市高栄東町1-4-31

2 JIADS 講師 医療法人双樹会 高井 歯科医院
〒731-0112 広島県広島市安佐南区東原1-1-2
シーブリーズ東原七番館2F

本連載の主旨

昨今、国内だけでなく世界的にインプラント周囲炎の増加が顕在化してきており、その対処法の確立が急務となっている。しかしながら、インプラント周囲炎に対する明確な治療法ははまだ確立されておらず、その解決には相応の時間が必要と思われる。それでは、現時点においてわれわれが最も留意すべきことは何か？ それは、インプラント周囲炎を起こしにくいインプラント治療を行うことと考える。そこで本連載では、インプラント周囲炎を予防するために考慮すべき事項について、以下の観点から考えてみたい。

(高井康博)

5月号 術前に必要な診査・診断、歯周病治療で考慮すべきこと …… 小野晴彦, 高井康博

6月号 インプラント埋入手術時に考慮すべきこと …… 猪子光晴, 高井康博

7月号 二次手術から補綴ステップとメンテナンスにおいて考慮すべきこと

…………… 石井肖得, 高井康博

(太字は今回掲載分)

はじめに

前回は、インプラント周囲炎に対する現在の認識を簡単にまとめ、術前に必要な診査・診断、歯周病治療で考慮すべき項目について述べた。今回は、インプラント埋入手術時に考慮すべき事項として、①埋入ポジション、②インプラント体の表面性状、③補綴主導型治療と骨造成術について述べる。

I インプラント埋入ポジション

1. 埋入深度

埋入深度は、将来装着する上部構造物のCEJ相当部から3～4mmの深さが適当とされている¹⁾。インプラント埋入部の既存骨に垂直的骨吸収が認められない場合、インプラントショルダ―を歯槽骨頂部と同じ高さから骨縁下約1mmの深さに設定することが多い。その際、2回法システムにおけるインプラント周囲の骨は、二次手術時に口腔内環境に曝